

嘉数高台、普天間基地

嘉数高地

宜野湾市嘉数にある高台、北谷、読谷、普天間基地を望む事ができる。

1945年4月1日米軍は読谷、嘉手納、北谷に上陸する。海を埋め尽くす1500もの艦船、18万の兵員、後方支援部隊を含めると54万人という太平洋戦争最大規模の作戦であった。米軍は上陸にあたって日本軍の水際での反撃により相当の被害を予測していた。しかし日本軍は水際作戦を採らず、それまでの上陸に比べれば「ピクニック」の様な上陸であった。日本軍は沖縄で米軍を釘付けにし本土決戦までの時間をかせぐため、壕に潜って戦う持久作戦を取った。そのため沖縄の住民は根こそぎ動員され、辛酸を極めることになった。順調に上陸し進んできた米軍は嘉数高地で最初の日本軍の猛反撃に遭うことになる。日本軍は嘉数高地にトンネル陣地を構築していた。戦闘は16日間に及び米軍は1日間に22台の戦車を失うなど激しい戦闘であった。爆雷を抱えて体当たりをし、戦車を止める様な戦法であった。

嘉数高地に残る壕の入り口。壕は米軍が高地に北側から攻めてくることを予想し南向きになっている。丘陵の尾根にそって中央坑道が掘られ、それから写真の様な枝杭が直角に伸び、むかでの様な構造になっていた。

沖縄の丘陵地帯は、横穴式の墳墓が在ることが多いが、壕はこのような墳墓から掘られた事が多かった様である。墓室は岩盤がむき出しになり掘りやすかったためである。



普天間基地

米海兵隊専用の航空基地、2800メートルの滑走路を持つ面積480万平方メートルの施設である。海兵隊は敵前強襲上陸を主任務とするいわゆる「なぐり込み」部隊である。普天間基地は米海兵隊にとっては重要な施設である。

宜野湾市の26%の面積を占め、ちょうど中央に位置するため宜野湾の町は文字どおりドーナツ状になり、はなはだしく住宅地に隣接している。

ヘリは不安定でしかも訓練のため不定期なコースを飛ばすため周辺の騒音被害はすさまじい。



青丘之塔

嘉数の高地に立つ、韓国人・朝鮮人を祀った碑。青丘とは韓半島・朝鮮半島のこと、昔中国では半島を中国側から見た様子からそう呼んだ。この碑の様に韓国人・朝鮮人の事にふれた碑は珍しい。彼らは戦場でもっとも弱い立場であり、もっとも危険にさらされた。



京都の塔

沖縄戦の慰霊碑は沖縄県をのぞき、各 46 都道府県建てられている。沖縄戦では軍人よりも民間人の戦死者が多かったにもかかわらず、住民被害に触れている碑は京都の碑を含め 2 基しかない。また文面においても特徴的で〇〇柱、英霊、玉砕、御霊などの様な語句が無い。



【京都の塔の文面】

京都出身者の将兵 2530 名余りの人が、郷土を想いつつこの地で倒れた、又、多くの沖縄住民も運命を共にされたことは、まことに哀惜にたえない。戦後 19 年を経てこの地で亡くなった人々のご冥福を祈るため京都市民によって建てられました。再び、戦争の悲しみが繰り返されることの無いよう、併せて沖縄と京都を結ぶ文化と友好の絆がますます固められる様、この塔に切なる願いを寄せます。

嘉数の塔

嘉数の住民が建てた碑。京都の塔と同じ敷地内にある。碑文にも在るとおり嘉数部落には日本軍が駐留しており過半数を超える死亡率となった。

【嘉数の塔の文面】

この地で、米軍を迎え撃つ日本軍は肉弾攻撃をし玉砕した。その多くが京都出身である。この時、嘉数の人々は京都部隊を援助、輸送等の任務につき、外地に出征した人もあわせ 343 人の犠牲者を出した。これは区民の過半数である。それは、本土防衛の使命感に殉じた区民の誠意によるものであり、永久に英勲を讃え芳名を塔下に埋蔵する。

